

大幅賃上げで 景気と生活の改善を

第22回拡大地方委員会



国際情勢では、ロシアのウクライナ侵略が4年続き、イスラエルによるガザ攻撃では6万7千人以上の市民が犠牲となり、千人以上の市民が犠牲となり、国連調査委員会は「ジェノサイド」と認定しました。さらに米トランプ大統領はベネズエラへの武力攻撃を行い、国連憲章を踏みにじる暴挙であり強く抗議すべき事態です。また総選挙直前に米大統領が特定政党への支持を表明したことは、選挙の公正性を損なう内政干渉であり、民主主義国家として許されません。

国内では、自民党派閥の政治資金問題が続く中、自民党と日本維新の会の連立政権が発足しました。しかし、補正予算では物価対策が一時的で、大企業支援や軍拡に巨額が投じられています。防衛費GDP比2%達成のため社会保障費削減が進み、「台湾有事」を口実にした発言

発など、平和と民主主義を守る立場を貫き、仲間と連帯して運動を進めなければなりません。労働時間規制緩和の検討や「働いて働いて働いて」という首相発言は働き方改革に逆行し、過労死を助長しかねず、労基法改悪には断固反対します。

総団結 総行動 羽生 委員長あいさつ (要旨)

今年、国鉄労働組合は結成80年を迎えます。戦後の定員法反対闘争、マル生反対、スト権奪還、国鉄分割・民営化、1047名問題の解決など、苦難の歴史を仲間と歩んできました。新たに加入した仲間もおり、組織拡大は日常的な取り組みとして、声を掛け、寄り添い、要求の多数派から組織の多数派へと前進することが重要です。

JR西日本では無人駅や窓口廃止が進み、利用者の不安や乗務員の負担が増えています。ワンマン運転拡大も安全上の課題が大きく、「安全最優先」の使命を守るため職場からの闘いが不可欠です。JR貨物では低額回答が続く、経営責任を社員に転嫁する姿勢が問題であり、労働条件改善と組織拡大の闘いが求められます。

地方ローカル線の切り捨ても進

26春闘では国労統一要求額21,000円を基本とし、物価高を上回る賃上げを勝ち取らねばなりません。大企業は内部留保を積み上げ続けており、社会的責任として賃金や社会還元に戻すべきです。春闘の山場ではストライキも構え、団結して闘うことが重要です。

通常国会では大軍拡、医療費削減、副首都構想、国家情報局創設、スパイ防止法などが議論される見通しです。憲法公布80年の年に軍事大国化を止める世論を広げなければなりません。国労綱領にある「戦争に反対し、アジアと世界の完全な平和をめざす」立場を貫き、26春闘勝利と国労運動の発展に全力で奮闘する決意を述べ、挨拶とします。共に頑張りましょう。

2月14日、地本は第22回拡大地方委員会を国労大阪会館で開催しました。2026年春闘の闘いを中心として、安全・安心輸

送と職場の民主化、労働条件の改善、組織の強化・拡大、政治課題、国民生活と平和・民主主義を守る闘い等、闘う方針を確立しました。8名中6名の

委員の出席で成立。議長に石割委員(京滋)を選出し、羽生委員長(あいさつ(別掲))に続いて、来賓として日本共産党 今泉書記長、大阪労連 福岡議長、こくみんCOP 大阪市推進課 福田氏、西日本本部 藤野副委員長より激励のあいさつを受けました。当面する闘争方針案を宮野書記長が提案。討論では

5名が発言し、全員の拍手で当面する方針を承認しました。

5名が発言
(要旨)

◎小関 委員(兵庫)
高市首相は1月23日に衆院を解散し、自民党は316議席を獲得したが、改憲への動きが懸念されている。平和と暮らしを守るため、憲法9条改悪反対と国民本位の政治が求められる。

JR西日本ではインバウンド増などで増収となる一方、効率化による要員削減や外注化が進み、安全やサービス低下、駅無人化による対応遅れ、社員の負担増が深刻化している。

ローカル線は生活インフラとして維持が必要で、自治体も国に支援を要望しており、労組としても税制支援やダイヤ改善を求めている。

兵庫地域分会は41名となり役員不足が課題で、組織拡大が急務である。

春闘では内部留保の還元による大幅賃上げ、安心して働ける職場づくり、公共

交通維持を掲げ、地域での宣伝行動を展開しながら2万1000円のベースアップ実現をめざして取り組む。

◎今西 委員(大阪)
2月4日付で新たに2名の加入があった。大阪貨物分会では百貨ターミナルコンテナ

労働条件改善と 組織の拡大へ



国労近畿

第246号
発行 羽生 隆盛
編集 木下 賢一
大阪市北区錦町2-2
TEL06-6354-0700
FAX06-6358-1465

修の濱田さん、兵庫地域分会では神戸ターミナル駅リフトマンの山口さんである。濱田さんは東海での組合経験があり心強い存在である。山口さんの加入は特に大きい。リフトマンは超過勤務を前提に収入を

確保する働き方が一般的で、基本給を上げて超勤を減らすという組合方針が理解されにくく、加入が進みにくい状況が続いていたためである。今回の加入によりロジは山陽地区を含め8名となった。

ロジの基本給は勤続給と勤務給で構成されるが、勤務給には上限があり、勤続給は10年で打ち切られる。平均勤続年数は10・4年で、長く働くほど不利になる制度となっており改善が必要である。

京都貨物駅のコンテナ検査庫は築30年以上で老朽化が進み、トイレや風呂場の整備が求められている。今後も改善要求を続けていく。

◎堀田 委員(大阪)



天王寺車掌区・阿倍野車掌区では、万博以降のダイヤ修正により25時間拘束・15時間乗務超えの行路や連続業務が今春も残り、交渉で是正を申し入れている。

天王寺車掌区では要員不足と突発休により毎月勤務買い上げが発生しており、近統に対し実態調査と報告を求めた。阿倍野車掌区でも出勤準備が続き、突発休により買い上げ勤務が発生している。今春のダイヤ改正で要員計画は162から146へ、基本所要員も1

40から131へ減少し、要員逼迫は改善されず、年休取得が可能なのか疑問である。

環状線では大和路快速へのうれシート拡大が予定され、混雑時の利用実態から中止を申し入れたが、天神祭時のみ解除となった。うれシートのバッグ携行の負担から、阪和線・大和路線での車載を求めている。

紀勢線ワンマン化に伴い、特急くろしおの乗務区間が京都・白浜から和歌山までに短縮され、業務量削減に疑問を持っている。

天王寺車掌区は組織人員7名全員がシニアで、2年後には3名となる見込みであり、運動継続のため国労加入拡大と対話活動を強化していく。

◎山脇 委員(兵庫)



2026国民春闘では、賃上げと物価上昇の好循環を実現し持続的な賃上げにつながる点で労使の認識は一致している。

かし働き方改革の名の下で労働条件の悪化も進んでいる。厚労省の毎月勤労統計では2025年の実質賃金が前年比1・3%減と4年連続のマイナスで、物価上昇に賃金が追いつかない状況が続く。一方、JR西日本の2025年4〜12月期決算は売上・純利益とも

過去最高で、国労の2万1000円ベア要求は十分実現可能といえる。兵庫地域分会は駅頭宣伝などを通じ、春闘勝利に向け全力で取り組む。

ローカル線問題では、加古川線の利用者数が増加したものの依然厳しい状況にあり、兵庫県の協議会でも持続可能な地域交通の議論が続いている。公共交通の維持は国の政策課題でもあり、地域分会は安全・ローカル線問題の宣伝行動や視察を通じ、上部機関と連携して運動を強化する。

効率化施策では車両検修の委託化が進む中、技術継承や品質低下への懸念が高まっている。JR東日本の事例を踏まえ、問題発生時には改善を求める姿勢が重要である。

政治面では与党が大勝利し、政府は安保政策の転換を進めているが、国民の多くは改憲を重視しておらず、平和憲法を守る取り組みが求められる。

組織拡大では関西ロジステイクスで新たな加入があり、継続的な働きかけの成果が表れた。地域分会として

近畿地方本部は、各委員からの意見を踏まえ、今後の取り組み方針を確認した。

安全対策と 駅無人化への対応

近畿統括本部が進める委託駅の無人化について、利用者への安全確保や介助対応に懸念が示された。地方本部として、職協と連携しながら現場の実態調査を進め、必要に応じて会社へ改善を求めている。

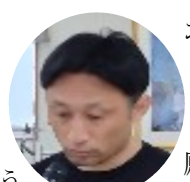
車両故障や設備トラブルの増加についても意見が寄せられ、車両検修体制の点検・改善を求める。安全を最優先に、現場の声を反映した取り組みを進める。

26春闘勝利で 生活改善を実現

物価高騰が続く中、生活

て今後も拡大に向け奮闘していく。

◎山中 委員(京滋)



私はクレペリン試験を3回目合格し、運転士に復帰することができた。運動性制度改善について再度お願いをしたい。実際、3回目の試験に合格した人は、全体の約20%という数字が出ている。私は初期の試験で受けたが、つい最近も何人か受けていて、3回目落ちて

いる人もいる。復帰時期が現在は速くなっているようで、試験を受けるのも9ヶ月空けてからとか、合格したら3か月ぐらいで復帰ができるようになっていく。

一定の改善はあるが、3回目落ちてた人も、再度受けられるようにする方が労働人口減少の対策につながると思うので、交渉等で声を上げていただきたい。

柘植の清掃の件で、先日団体交渉に参加した。引き続き粘り強い交渉をお願いしたい。

今後は自治体や地域住民との意見交換を進め、鉄道を地域交通としてどう維持していくか、兵庫地域分会と連携しながら検討を深めていく。

政治情勢について

2月8日の衆議院選挙では野党が大きく議席を減らした。地方本部として、平和と民主主義を守る立場から、対話による問題解決を重視し、市民と共同した取り組みを進めていく姿勢を確認した。

書記長集約 (要旨)

ていく。

ローカル線問題は 地域とともに未来を考える

昨年11月には加古川線の視察を実施し、ダイヤや沿線状況を確認した。利用が少ない区間の課題や、貨客混載などの新たな可能性について意見が交わされた。

仲間を増やし、 組織の強化を

3月3日の中央総決起集会(近畿はリモート参加)、3月12日の西日本エリア総行動では、全組合員の結束を呼びかけている。

物価高騰が続く中、生活